

ワークショップのご案内

一般社団法人日本箱庭療法学会第 38 回大会を学習院大学（東京都豊島区）および Zoom（オンライン）にて開催いたします。今大会は、12 名の先生方にワークショップ講師をお引き受けいただくことができました。

ワークショップの形式は、講師に一任しています。コースによって、テーマに即した参加者からの事例提供を募集しています。詳細は各コース（A～L）の案内をご覧ください。

みなさまの積極的なご参加を心よりお待ちしております。

1. ワークショップ概要

日 時： 2025 年 10 月 25 日（土） 9:30～12:00（受付開始 9:00）

会 場： オンサイト：学習院大学（東京都豊島区）

オンライン：Zoom

講 師： （50 音順・敬称略）

A	岩宮 恵子	（島根大学）
B	梅村 高太郎	（京都大学大学院教育学研究科）
C	大山 泰宏	（放送大学（2025 年度より学習院大学））
D	河合 俊雄	（京都こころ研究所）
E	岸本 寛史	（静岡県立総合病院）
F	桑原 知子	（京都大学名誉教授・放送大学特任教授）
G	高石 恭子	（甲南大学）
H	田熊 友紀子	（代官山心理・分析オフィス）
I	田中 康裕	（京都大学大学院教育学研究科）
J	豊田 園子	（豊田分析プラクシス）
K	名取 琢自	（京都文教大学）
L	前川 美行	（東洋英和女学院大学）

受 講 費：

	A 〔 7 月 31 日までに お申し込みの方 〕	B 〔 8 月 1 日以降 お申し込みの方 〕
会 員	6,000 円	7,000 円
非会員	8,000 円	9,000 円

受 講 資 格： 一般社団法人日本箱庭療法学会正会員。もしくは臨床心理士の有資格者、臨床心理学を学んでいる大学院生、臨床心理学およびその関連領域で実践的な仕事に従事されている方で、心理臨床事例に関する守秘義務を遵守できる方。

2. ワークショップ・コースのご案内

A 幼少期のトラウマ体験がその後の人生に及ぼすもの―面接と心理テストから理解の方向性を考える―

講 師: 岩宮 恵子（島根大学）

内 容: 親からの虐待によって深刻なダメージを受けている子どもと、加害者の立場になっている親に対しての臨床心理からの働きかけがどれほど重要なことであるのかということは論を待たない。一方で家庭内での暴力が、一切、外部に知られることがない場合もかなりある。その家庭で育った人が成長してから、自分でも理解できない不適応やさまざまな症状の発現によって来談に至り、そこで初めてその悲惨な生育歴について語られることも多い。今回は、さまざまな不調を訴えて来談した成人クライアントのインテーク時のロールシャッハやバウム、WAIS、SCTなどからの見立てをクライアント理解にどのように活かすことが大切なのか、そしてそのクライアントのみならず、家族全体のトラウマの問題としてどう捉えて考えていくことが必要なのかを検討していきたい。

事例提供者: 齋藤 真喜子氏

B 子ども臨床におけるセラピストの個人的色彩

講 師: 梅村 高太郎（京都大学大学院教育学研究科）

内 容: 子どもは、主に学校生活でのさまざまな経験を通じて、親や家庭の価値観を相対化し、独自の価値観を築きながら、“子ども”から“大人”へと変化していく。この動きは特に思春期において際立つものだが、児童期・青年期を通じて徐々に、あるいは折に触れて進行していくものでもある。この成長のプロセスに躓き、心理療法を訪れる子どもたちから投げかけられる、「子どもはいるのか」「なぜこの仕事を選んだのか」「何が好きか」といったセラピスト個人への質問は、成人との心理面接における同様の質問とは性質を異にしているように思われる。こうした問いへの返答にあらわれる直接的なものだけでなく、言動やたずまいから自ずと滲み出るセラピストの個人的な要素が、心理療法のプロセスに影響することも少なくない。本ワークショップでは、そうしたセラピストの個人的色彩が子どもとの心理療法においてどのように働くのか、その影響について考えてみたい。

事例提供者: 受講者の中から事例提供者を募集します。

児童期～青年期の事例（本テーマに触発されたものであれば、年代は広くとっていただいかまわない）。箱庭、描画、夢、遊びなど何らかのイメージ素材が含まれていることが望ましい。

C 発達の手順から「プレイ」と「表現」を考える

講 師: 大山 泰宏（放送大学（2025年度より学習院大学））

内 容: 昨年度のワークショップに引き続き、象徴機能以前の心の働きについて考察する。今回は、感覚・認知機能の発達手順と「あそび」や「表現」、「コミュニケーション」との関連に焦点を当てたい。「発達障がい」のクライアントのこのころのあり方は、けっしてあるべき定型状態の欠如や不完全さではなく、それぞれに固有の組織化された秩序をもっている。一見捉えがたいプレイや表現も、そのクライアントの発達のあり方や体験世界を内面的に理解するのであれば、見事な手順がみとれる。このワークショップでは、とりわけ幼児期の子どもの運動、認知、コミュニケーションの発達の手順を念頭におきつつ、学童期以降から成人期の発達障がいのクライアントの体験世界、自己構成や世界構成のあり方を、その内側から理解する試みをおこないたい。というのも、発達障がいにかかわるテーマは、その年齢期にのみ固有のものではな

く、年齢的にはずっと初期の発達のテーマに関するものであることも多いからである。さらには、クライアントに関するそうした理解を、記述したり第三者に説明したりするとき、私たちはどのような言葉と概念を持ちうるのかも検討したい

事例提供者: 受講者の中から事例提供者を募集します。

D ASD という診断と抑制・不安

講 師: 河合 俊雄（京都こころ研究所）

内 容: 近年、ASD という診断を受ける子どもは増えているが、実際にプレイセラピーを行ってみると、そうではない場合が多いように思われる。そのなかには、抑制や不安が強いために、WISC でも処理速度が遅くなったりして、ASD という診断を受けている子どもが多く含まれている。プレイセラピーにおいては、ASD ではなくても、抑制や不安で抑えられている主体性が発揮されていくのが大切になる。このワークショップでは、事例に基づいて、ASD という診断を受けた小学校 5 年生の男子が成長していくプロセスを検討したい。

事例提供者: 田中 秀紀氏

E 箱庭表現における強度

【対面(オンサイト)のみ開催】

講 師: 岸本 寛史（静岡県立総合病院）

内 容: 井筒俊彦は、『コーラン』にみられる語りの水準の変化の背後に語り手の意識水準の変化があることを見抜いた。そして、想像的水準、物語的水準、現実的水準の三つの水準を区別し、この順に意識の緊張度、強度が弱まるとした。この意識の「強度」は、直感的には捉えられても明確に定義することは難しいかもしれない。ただ、心を揺さぶられるような深い体験をした直後の強い緊張度から、徐々に緩んで通常の日常的な意識状態に戻る一連の流れを思い起こせば、イメージしやすいかもしれない。クライアントの語りを聞きながら、その背後にある意識水準の変化にも目を配ることが大切だと筆者は考えている。変容のプロセスには意識水準の変化が伴うと思うからである。そして、意識の強度の変化は、クライアントの語りのみならず、箱庭をはじめとする表現にも見られると思うが、これまで、箱庭表現を意識の強度という観点から考察することはあまりなかったのではないかと思う。本ワークショップでは、この点について考える上で唆に富むと筆者が考える事例を提示し、参加者に検討していただく。

[本ワークショップは、対面（オンサイト）のみで開催し、オンラインでは実施しません。]

事例提供者: 講師自身の事例を提供します。

F 箱庭療法・心理療法の「光」と「影」 一人のこころに踏み込むということー

講 師: 桑原 知子（京都大学名誉教授・放送大学特任教授）

内 容: 心理療法では、人のこころを癒すことが目指される。ただ、それは、人と人が「関係」をもつことから始まり、そしてそのことは、人を傷つけることにもつながりかねない。このことは、箱庭療法においても同様だと考えられる。本ワークショップでは、心理療法における「光」と「影」の様相について想いをめぐらし、箱庭療法・心理療法における「人のこころに踏み込む」という特質について、考えてみたい。

事例提供者: 受講者の中から事例提供者を募集します。

どんな場所で行われたものでも、どんな形態で実施されたものでもかまいません。

G 教育臨床現場における表現技法の実践的活用

講 師: 高石 恭子（甲南大学）

内 容: コロナ禍が明け、様々な活動制限が撤廃されたにもかかわらず、人と人との密な関わりが回避され、距離を置いたあり方を志向する傾向がかつてより顕著になった時代を私たちは過ごしている。じっくり他者と「共に居る」よりも、時間や経済効率を重視して「何かをする」ことが優先される変化は、子どもの育ちや教育環境にも少なからず影響を与えているのではないだろうか。「自分」という実感の希薄さ、他者の内面に関心を向ける共感的な態度の減退は、子どもや若い人々にとって、ある種の生きづらさにもつながっていると考えられる。このような時代に、学生相談や教育相談の現場でイメージや五感を積極的に活用した技法を導入することは、人の成長を支えるという視点からも心理臨床の重要な実践だと言える。本コースでは、描画、箱庭、造形などの表現技法が今の現場でどのように実際に展開され、どう活かされているのか、その可能性と意義を皆様と一緒に考えてみたい。個人や集団への心理的支援の経過で表現技法を積極的に（あるいは必要に迫られて）導入し、クライアントの成長や回復に意義を感じた事例を募集する。

事例提供者: 受講者の中から事例提供者を募集します。

H 思春期の「話せなさ・話さなさ」へのアプローチ

講 師: 田熊 友紀子（代官山心理・分析オフィス）

内 容: 心理面接や心理的援助の場において、思春期のクライアントと向き合った時、しばしば思春期特有の難しさに直面する。その一つに、クライアントが心理面接の中で「話せない」あるいは「話さない」といった状況が続く場合などがある。その際にはセラピストは困惑したり、焦ったり、独り相撲のような状況に陥る。そもそもクライアントは目の前のセラピストに対して「話したくない」のか、わかってほしい気持ちはあるがうまく「話せない」のか。これらの状況を詳らかにみていくと、多様で繊細なこころ模様が絡み合っており、その絡まりと向き合い、どうアプローチしていくかが、セラピストとクライアントとの共同作業となると思われる。その際に、箱庭、描画、多彩なイメージなど非言語的なコミュニケーションにセラピスト自身が開かれていることが求められるだろう。本コースでは、言語面接が困難な思春期の事例をとりあげて、「話せなさ・話さなさ」の背後にあるものいかにアプローチし、やりとりや理解を可能にしていくかについて考えていきたい。

事例提供者: 杉田 理緒氏

I 自閉スペクトラム症(ASD)における「十歳の壁」について

講 師: 田中 康裕（京都大学大学院教育学研究科）

内 容: 小学校中学年から高学年にかけて、ASD 傾向をもつ子どもが学校での友人関係でトラブルを抱えたり、その結果、不登校状態になったりすることを臨床的にはよく経験する。子どものケースだけでなく、大人の ASD 傾向をもつクライアントとの心理療法でも、彼らの語りのなか、十歳前後での精神発達の躓きが垣間見られることも少なくない。風景構成法で「川」が立つという現象が見られるのもこの時期で、人間の精神発達において「十歳」は大きな節目の時期と言えるだろう。このワークショップでは、京都橘大学心理臨床センターの長野真奈氏に事例発表をお願いし、この「十歳」の心理学的意味を検討することで、それが「非定型発達」と思われるケースにおいてどのような意味をもつのかについて検討したい。

事例提供者: 長野 真奈氏

J 箱庭制作のグループでの制作実践ワーク

【対面(オンサイト)のみ開催】

講師：豊田 園子（豊田分析プラクシス）

内容：箱庭は大きな可能性をもつ治療技法ではありますが、実際に臨床場面でそれを用いている方にとっても、ご自身で箱庭を置くという経験はそれほど多くないのが実情ではないでしょうか。大学での実習以降は、触れる機会がなかったという方もあるかもしれません。このワークショップはグループではありますが、実際に箱庭を作っていただく機会を提供するものです。実は箱庭をグループで作ることは、個人で作るのとはまた違ったメリットもあります。メンバー間での無意識の交流を実感し、メンバーに触発されることで自分の意外な側面に気付かされる体験ともなります。こうした実体験を通じて、箱庭のもつ可能性に啓かれることによって、臨床の場面でも箱庭制作を見守る態度が変わってくると思います。（今回は20人の定員で2つのグループで制作を体験していただきます。）

K 箱庭／夢イメージ系列のコンテキストと元型的心理学—世阿弥の芸術論「皮肉骨事」の視点も活用して—

講師：名取 琢自（京都文教大学）

内容：ユングは夢の系列のなかから「コンテキスト」を見出すことを推奨している。「コンテキストの確認によって見出された意味を夢テキストにあてはめ、それによってテキストがなめらかに読めるようになったか、ないしはそれによってテキストが充分納得のいく意味を獲得したか、これを試してみるということが、いついかなる場合でも原則である(…)こうして獲得される意味が、予め懐いていた何らかの主観的期待に一致するのではないかなどと考えることは絶対に許されない。」（ユング『心理学と錬金術』I, p.71）また、「夢の意味を理解するためには、できるだけ夢のイメージのすぐ近くに留まっていなければならない」（ユング『夢分析の臨床使用の可能性』, p.17）という態度は、ヒルマンらの元型的心理学のモットー「Stick to the Image（イメージに忠実に従う）」として引き継がれている。能楽師・世阿弥『至花道』には、三つの芸能、皮（姿に現れているもの）、肉（訓練で磨かれた演技）、骨（生来の素質）が論じられている。これらはイメージ系列の深さに関係する視点として活用できるかもしれない。ワークショップでは箱庭作品や夢のイメージ系列を忠実に辿りながら、コンテキストを探りあて、事例の理解を深めていきたい。

[本ワークショップは国際箱庭療法学会(ISST)入会資格取得のための理論的学習の時間数にカウントすることができます。]

事例提供者：受講者の中から事例提供者を募集します。

箱庭、夢、描画などイメージ表現の系列を含む事例を募集します。

L 身体が登場する夢と実感

講師：前川 美行（東洋英和女学院大学）

内容：私たちは自分の顔も全身も生で見ることはできないが、他者の顔や身体、自分の動きや感覚を手掛かりとして「私」イメージを作り上げる。作り上げられた「私」イメージは身体の実感を伴い、過去の映像の「私」を見るとその瞬間の自分の身体感覚が浮かび上がったり、生々しい映像とともに身体が追体験したりすることもある。それは夢イメージにおいても同様であろう。しかも夢の中では見ているだけではなく、実際にその夢の中で身体で体験していることも多い。足が絡まって動かない、重い身体で走れない、腕がちぎれる、穴の開いた胸、傷だらけ、血まみれの身体、海に沈む、化粧をする、ほおぼるなど。では、日常的解離体験の語りが増えた最近では、夢に現れる身体に実感は伴うのだろうか。赤ちゃんの時から自分を映した動画を見て育ってきた子どもたちにとって実感と視覚像の関係はどのようなものだろうか。夢の

中の身体に生々しさや実感が欠けるのだろうか。あるいはゲームの中での体験は私の生々しい実感を作るのだろうか。そこで、生々しい身体や逆に実感のない身体など、身体が登場する夢のケースの検討を通して考えてみたい。

事例提供者： 受講者の中から事例提供者を募集します。

3. ワークショップの受講申し込み

ワークショップの参加申込は、別紙「第1号通信」を参考に以下の要領でお申し込みください。

1. 学会ホームページまたは、右記 QR コードの申込フォームより、ご希望のワークショップを選択し、お申し込みください。

到着順での受付となりますため、定員になったワークショップから締め切らせていただきます。また、**会場の定員数により、ご希望のワークショップにご参加いただけない場合もございますので、あらかじめご了承ください。**



2. 自動返信メールの内容をご確認の上、**2週間以内**に下記口座へ諸費用をお振り込みください。**お振り込みの際には、必ず参加者ご本人の名義でお振込みいただき、自動返信メール内に記載されている【受付番号】をお名前の前に必ずご記入の上、お振り込みください(例:00001 ハコニワタロウ)。**
なお、振り込まれた諸費用は、事情の有無に関わらず返金いたしませんのでご了承ください。
3. オンサイト参加者には、9月下旬に名札を送付します。当日必ず持参し直接会場へお越しください。受付は必要ありません。
4. 「当日参加」受付はございませんので、期間内にお申し込みの上、ご参加ください。

<ゆうちょ銀行から振り込まれる場合>

口座名：00920-0-310345

加入者名：一般社団法人日本箱庭療法学会年次大会

<他の金融機関から振り込まれる場合>

銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900

店番：099 預金種目：当座 店名：〇九九店（ゼロキユウキユウ店）

口座番号：0310345

4. ワークショップの事例発表申し込み

1. 希望するワークショップ・コースが事例を募集している場合にのみお申し込みいただけます。なお、事例発表は原則として会員に限ります。
2. 参加申し込みの際、事例発表申し込み欄に必要事項を入力し、**2025年4月18日(金)**までにお申し込みください。
3. 事例発表の申し込みが多数あった場合は、講師と相談の上、選択しますのでご了承ください。

5. 研修ポイントについて

ワークショップ、シンポジウムの両方に参加した方には、日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士教育・研修規程別項」第2条(3)「本協会が認める関連学会での諸活動への参加」の通り、ポイントが付与されます。詳細は、第1号通信6頁の「4.研修ポイントについて」をご参照ください。

ワークショップ K（講師：名取琢自先生）に参加された方は ISST（国際箱庭療法学会）正会員になるために必要な「理論的トレーニング 100 時間」のうちの参加時間数として認定されます。参加証明書をご希望の方は、日本国際箱庭療法士協会事務局（JISST）メールアドレス（jisst_office@sandplay.jp）までご連絡ください。ISST（国際箱庭療法学会）は世界の箱庭療法家が集い、学び合う場になっています。日本の箱庭療法への期待と関心も高まっています。皆様のご参加をお待ちしています。

※ISST 参加証明書希望者については、JISST に参加情報を提供いたします。

**一般社団法人日本箱庭療法学会
第 38 回大会ワークショップに関するお問い合わせ・連絡先**

■一般社団法人日本箱庭療法学会 第 38 回大会準備委員会

E-mail : congress@sandplay.jp

住所 : 〒541-0047 大阪市中央区淡路町 4-3-6 (有) 新元社内

*お問い合わせやご連絡は E メールでお願いいたします。